

仏教と九条

浄土宗 善照寺住職 大谷 隆照

私は浄土宗の僧侶です。現在の憲法改正の話が声高に語られるようになってきたことに憂慮するもののひとりです。

改正の目的は九条を変えて集団的自衛権の名の下に、いつでも戦争のできる国にしようというところにあるわけですから、これは改正ではなく改悪ではないでしょうか。現実の状況が憲法に謳われている精神と大きく乖離していることは間違いありません。戦争の世紀と言われた20世紀から引き続き21世紀にいたっても世界の各地で戦火のやむことはありません。しかし、だからとこそ、九条の存在価値がますます大きくなっていると思うのです。

お釈迦様の教えの根底にあるものは徹底した「いのちの尊重」と「平和主義」です。お釈迦様が説かれた戒めの一番目は「汝殺すなかれ」です。これは人間だけでなく、ありとあらゆる命、小さな虫から草花にいたるまで無駄に殺してはならないという戒めです。

また、法句経という経文の中に「恐れが生じたから武器をもったのではない。武器をもったから恐れを生じたのである。」とありますが、これは変わらぬ真理だと思います。今、大国といわれる国々は互いに疑心暗鬼に陥り、果てのない核兵器開発を競っています。

このような状況の先に人類の未来はありません。まさに暗夜です。その中で、九条はかすかではありますが灯の役割を果たしていると思います。九条はまさに人類の灯なのです。

私はお釈迦様の教えを守ることは九条の守ることに他ならないという信念のもとに微力を尽くしたいと思います。



平和委員会（平和の会）に入会して、草の根平和運動に参加しませんか！

「九条の会・水戸」が発足しました

みとみなみ平和の会 神長 壮行



9月8日(土)水戸市民会館に69名が集い、「九条の会・水戸」を発足しました。

総会に先立って、石山久男氏（歴史教育者協議会委員長）の記念講演を聞きました。

石山氏は九条と非戦平和をめぐるこれまでの歴史的経緯をわかりやすく説明して、改憲勢力がなぜアメリカ追従にこだわるのか、多国籍企業の権益保護が目的ではないのか。日本を守るためなら、軍備増強よりも平和外交を積極的にすすめることがずっと有効。世論は9条改憲反対が多数になりつつある。と解説しました。これからもさらに運動を広げ、国際的連帯も広げよう、と呼びかけました。

「憲法9条今こそ旬」のフレーズを思い返した1日でした。

格差が広がり貧しい人が増えれば、徴兵制をしかなくても兵隊が集められる アメリカの現実をしっかりと見据える市民の目が必要です。



総会を開きました

荃崎平和の会 軽部 和子

いつもお世話になっております。荃崎平和の会です。

みなさまには大変ご心配をお掛けしておりましたが、筑守平和の会から分かれて1年6ヶ月が過ぎ、去る9月1日荃崎平和の会の総会を6名の会員で開くことが出来ました。

会議では九条の会と平和の会の違いや取り組み方などいろんな意見が出され、会の運営や役員など今後の方針を話し合う事ができました。

これからも皆様にはご指導の程よろしく願いいたします。

話しあいの中で決まった事をご報告いたします。

1 会は会員相互の親睦をはかり、楽しく意義ある会を目指す。

- 2 運営は2ヶ月に1回会議を開き、時々活動や行事を決める。
- 3 2ヶ月に1回の割りで会の新聞を発行する。
(会員の親睦と会を多くの人に知ってもらう)
- 4 役員体制は幹事を若干名おくことになり、当面、大滝修、室谷禮、軽部和子、軽部英司(敬称略)の4名あたり、代表幹事は軽部英司でスタートする事になりました。
- 5 第1回の行事として10月28日に靖国神社と平和記念館のツアーを取り組む。

平和かわら版

No. 481

月3回 発行

平和新聞茨城版

2007.9.15

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



平和憲法を守るためにあらゆる取り組みを！



県南農民組合 山口 徹

いま仕事で農家を訪れる機会が多くありますが、大きな母屋の奥には遺影が飾ってある農家も少なくありません。先の戦争で戦場に借り出された多くは農民でした。戦争で労働力が足りず食糧が不足していた時代を考えると、いま「食を守る」ということがいかに大切であり必要かということを感じます。

私は日本国憲法について日本人でありながら学生時代に習ったおぼろげな知識で毎日生活してきました。そして憲法9条があるから戦後62年間外国で人を殺さなかったし、日本国民も殺されなかったという事実も知り、この平和憲法が自分たちの生活を保障してくれていることを実感しました。

先の戦争では世界中で多くの方が亡くなりました。あの戦争責任は当時の政治家にあり、それに扇動された一般国民はただ犠牲になってしまいました。もしこのまま9条が削除された憲法になってしまい、他国との戦争に巻き込まれ、子どもや孫が銃を持つようになり、他国を侵略することを当然と考えるようになったとしたら、この平和憲法の改悪を止められなかった私たちの責任です。それだけは絶対にさせないように努めようと思っています。

いままで何気なく過ごしてきた平和な社会。こんな戦争のない平和な世の中でありたいと世界のどんな国の人も同じ願いを持っていると思います。どの国も戦争で死んだり傷ついたりすることはみたくありません。この憲法9条を日本から世界中に広げてこそ“平和”なのです。憲法9条は、世界に誇れる日本の宝です。たとえ何があっても、戦争という暴力は二度と繰り返してはいけないと感じます。私たちが戦争をしないこと、戦力を持たないことを守り、62年前に戦争を体験した子どもたち、女性、平凡な市民が残してくれた戦争の正しい姿、記録を無にしないためにも今、私たちが、気づいた人たちが、周りの仲間と手を取り合い学習していくことが大切だと思います。

いままでこの平和な生活がずっと続くと当たり前のように思っていたのですが、世界のどこかで罪の無い人が殺され

ていることも当たり前になっています。日本でもこの間の政府による一連の改憲への動きをみていると、近い将来に世界の戦場へ赴くという軍事国家への足跡がコツコツと聞こえてくる感じがしてじっとしてられませんが、同年代くらいの人たちは、平和問題についてあまり関心をもっていないようにみえますが、本当は戦争は嫌だという人の方が多いと思います。自分だけの問題に留めず、この運動を広く語り、平和憲法を守るためにあらゆる取り組みを今以上にすすめていく必要を感じます。

「日本の青い空」 日立上映会に350人

一部感想文より

さくらのまち日立平和委員会 岩間 雅美

日本国憲法について読んでみたいと思いました。

(50代女)

国の本(もと)となる憲法への理想・理念を掲げて草案を作り、国民主権の国にするという情熱を燃やし続けてきた人々の存在を、映像を通して再認識できました。希望という一本の草はそう簡単には流され得ず。この映画を観たという記憶は流れに逆らい抗う力ともなり得る筈。

(50代女)

日本女性の平等を強く願って草案にしてくれた、日本で10年間育ったアメリカ人女性には涙が出た。

(60代女)

少し理屈っぽい『米国に押し付けられた』論に対して、目を開くだろう。治安維持法による弾圧は、この映画ではまだ少し理解できぬかと思う。若い人には補足する資料が必要。年配の婦人多く、大変いいこと。アンケート記入も熱心で、この手がかりは貴重なものです。

(80代男)

現憲法がGHQ主体で作られたものでなく、当時の憲法研究会案が下敷きとなったことに強い印象を受けました。「GHQの押し付け憲法」との論拠は、あまり意味をなさないと思いますね!!

(60代男)

人類の進化の中で理性の極致と

日本国憲法を学ぶ会ひろくー

五霞平和友の会 青木 不二子

「五霞でも九条の会を」の願いをこめて、9月1日日本国憲法を学ぶ会が開かれ、遠くからは古河市、境町在住の参加もあり40名が参加しました。「おはなし」は元五霞町長の大谷隆照さん、大谷さんは「憲法を守り、地方行政に憲法を生かしたい」との選挙公約を示して当選。9年5ヶ月間、今年の4月末健康不調で町長職を辞された方です。

この日の「おはなし」の中で私が改めて深く考えさせられ、確信したことは、国民主権という中身でした。改めて、国民主権とは「人民の人民による人民のための権利」と言うことでした。明治憲法は天皇主権であり、天皇主権の転換を(革命と同じことを)日本国憲法を制定することによって行った(フランス革命と同じこと)ということでした。国家の存在意義は何か?明治憲法では個人は国家のために存在するものでしたが、日本国憲法は国民一人一人が権利を保持するもので、その他の(国家を含め)どんな権力にも属さないということでした。

国民に選ばれて(選挙で)負託を受けた政府=国会は憲法の内側でのみ行政を行わなければならないということです。

私は常日頃「国民投票法は改憲阻止にもなる」という主張に疑問を持っていましたが、上記の考えをすすめるならば、人民の持っている日本国憲法に対する権利を政府は勝手に変えようなどと思てはいけないことになるのです。

日本国憲法は人類の進化の中で理性の到達する極致の理想だと強く強く思いました。

事務局便り
「池に落ちた犬は打て」と言う諺がある。
先の参議院選挙での民意は、安倍総理達の憲法改悪グループに一定の歯止めをかけた。
しかし、彼等は諦めたわけではない。侮つてはいけない。と言う認識で我々は一致している。
県平和委員会も秋の行動で全市町村宣伝行動、「秋の市民集会」と会内の「九条の会」関係者の交流会と「犬を打つ」運動が目白押し。「打つ」のでなく息の根を止めよう。(ま)